

---

**もしも、ゴーカイ、ゴセイ、シンケンのメンバーが普通に学園生活をしていたら**

歌紅夜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

もしも、ゴーカーイ、ゴセイ、シンケンのメンバーが普通に学園生活をしていたら

### 【Nコード】

N8760Z

### 【作者名】

歌紅夜

### 【あらすじ】

え？マーベラスたちが、学園生活！？  
気ままに更新する小説。

くマーベラス、諸星学園高校に転校する。く（前書き）

くお願いく

ちよつと、キャラ崩壊や、話の方向がずれる可能性があります  
ご了承ください。

「マーベラス、諸星学園高校に転校する。」

「マーベラス、諸星学園高校に転校する。」  
諸星学園高校。ある人物はその校門を見つめた。

「今日からここで学校生活をするのか…」

彼の名前は、マーベラス。この高校に転校することになったと言う。

「マーベラスさんですか？同じクラスのアイムです。」

いきなり校門で話しかけられた上に、いきなり自己紹介！？マーベラスはかなり驚いた。そしてもう1人誰かがきた。

「アイム、この人がマーベラス？」

と美人だが、口の悪そうな女が来た。

「早く行こう、あの先生だけは勘弁してほしい。」

1 Cの教室。教室に行くと、いろんな人たちが集まっていた。キーンコーンカーンコーン…。先生が入ってきた。名前は確か…。あ！ダマラス！！

「席に着け。」

茶色くて、ゴツツイおじさん。て、いうか人間じゃない！出席簿を教卓に置き、転校生である彼を紹介した。

「転校生のマーベラスだ。何か一言あるか？」

「無い。」

即答した、マーベラス。クラスの殆どの人が扱けた。後ろのほうに座っていたジヨーは、動じなかった。

「じゃあ、お前は花織の隣だ。」

ダマラスはマーベラスの背中を押した。

マーベラスのおもしろ（？）学園生活スタート…！

くマーベラス、諸星学園高校に転校する。く（後書き）

すみません。

感想など、何か注意する点などありましたら、お書きください。

くマーベラスが、このクラスにきて初めての授業。く(前書き)

ルカ 諸星学園高校じゃなくて、「ザンギヤック学園高校」じゃない？

アイム 言われてみれば…。確かにそうです。

「マーベラスが、このクラスにきて初めての授業。」

「マーベラスが、このクラスにきて初めての授業。」

「ことはです。よろしくお願いします。」

席に着きHRが終わると、すぐに授業が始まった。1限、理科。理科担当は、インサーンだった。これもまた、人間じゃない！

（この学校、人間じゃない先生ばかり…。）  
すると、前に座っていた長髪男子が話しかけてきた。

「しょうがない。そういう人たちが集まる地域だ。」

長髪男子への第一印象：名乗らない男。

「なあ、まず名乗れよ。」

「…ジョーだ。」

マーベラスはジョーに対する印象を変えた。「無愛想」というか、「堅物」。素直じゃないことは確かなのでことはに、次の質問をした。

「なあ、ジョーっていつもあなのか？」

「そうですね。限られた相手としゃべらないですし。」

ふん、と思ったマーベラス。

「ちょっとそっ、何やっているの！…！」



教師：インサーンに見つかった。しかしそのまま授業は続いた。

「ことは、そこら辺にしておいて。何かあったら電気ショックだとか、なんだか出てくるから。」

そうだったのは、同じ年齢なのに、ことはのお姉さんっぽい存在。

「転校生のマーベラスね。私、茉莉。」

キーンコーンカーンコーン……。転校先での初めての授業、使ったノートのページ数……1ページとちよつと。

くマーベラスが、このクラスにきて初めての授業。く（後書き）

名乗らない男って書いたけど、実際にいえば、ルカも名乗っていません。

くっつきかちやってしまつた、マーベラス。く（前書き）

ジョー「どんな生活しているんだろつな、俺ら。」

ルカ「さあ？」

「うっかりやってしまった、マーベラス。」

「うっかりやってしまった、マーベラス。」  
2限、数学。数学担当はスニーカーブラザーズの弟、ヤンガー。兄、エルダーはお仕置き用。

「さっきとはまた、違うな。つうか、肩に乗っている球体何！？ていうかあの球体ちっちゃ！？」

ノートを書きながらも色々とツッコミたいことがあるらしい。そして教師：ヤンガーに見つかった。茉莉とジョーは呆れる事以外に、出来ることが無い。

「コラ、お前ら！！何やっているんだ！！兄貴、行けー！！」

ちっちゃい球体のほう、エルダーをでつかい球体の怪人体、ヤンガーが投げた。マーベラスはすかさず、教科書でガード。ジョーは見ておどろいた。今までの攻撃を防げたものはいない。そして最終的にはエルダーは教科書で跳ね返り、ヤンガーに当たった。

「やっべえ…。」

さすがにマーベラスも、ことはも、ジョーも茉莉も危ないな…と思つた。今の、あくまでも、「不幸な事故」のはずなのだが…。そうはいかないみたいだ。八つ当たりのようにエルダーを投げ込む、ヤンガー。

「やあああああああああああああ！！」

エルダーもさすがに限界。なので、サラリと受け流された。いうのであれば、受け流されても、あとで職員室行きであることをマーベラスとジヨーは予想した。

チャイムが鳴った。彼らの予想通り職員室行き。出てきたのは、理事長、ワルズ・ギルだった。

（あゝ、やっぱりそういう展開か…。）  
どいう展開かというと、彼もまた、人間じゃない。

「お前、何をした！！」

「それは…その。」

（教科書で防御したらたまたま当たったなんて言えねえ！！）  
マーベラスはそのまま目をそらした。

「教科書で防御したら…たまたま当たった…みたいない。」

言えないとか何とか言いながら、ちゃっかり言っている。

「まあ、良いだろう。今回は見逃してやる。」

うわ、処分を検討するのがめんどくさくて投げ出した。2限の数学、ノートの使用量は半ページだった

くっつきかりやってしまった、マーベラス。(後書き)

あうっ！マーベラスのキャラ崩壊スタートおお！！

読者の皆様ごめんなさい！！

「今度はジョーがやってしまったぞ」(前書き)

モネ「出番あんの？」

アグリ「さあな。」

「今度はジヨーがやってしまった」

「今度はジヨーがやってしまった」

「さつきはひどいことになりやがった。」

「気をつけないとな」

3限、地理。先生は…、担任のダマラスだった。マーベラス、ピンチ。最初のほうを見ると分かるが、断言したこともあるので、ヒヤヒヤ。

「ことは…。これは現実…だよな？」

「現実です。」

マーベラスは、嫌な予感がしてならなかった。前に座っていたジヨー・茉莉は警戒。

「どうしようもないわ…。」

茉莉の前に座っている、モネが言った。

「異議なし…。」

モネの隣、ハカセ（ドン）が言う。

ジヨーは、何故か窓をずっと見ていた。

「…ジヨー、ジヨー！」



ダマラスが呼んでも、一向に気にしていない。最終的にはチョークを1本を投げた。そのことには気付いたらしく、打ち返した。すると、コントロールが悪く、一番前に座っていた「池波流ノ介」に当たった。

「いでっ！」

マーベラスに続き、ジョーがやってしまった。

「ジョー……。」

マーベラスは啞然、茉子は、今度はこっちかと、呆れていた。

地理とは、分からないものである。なにがどうあって、世界はどう、動いているのか。ノートを書きながら地理を勉強する意味を考えていたマーベラス。気付けばチャイムが鳴った。地理のノートの使用量は、2ページだった。

♪今度はジョーがやってしまった♪ (後書き)

感想をください。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8760z/>

---

もしも、ゴカイ、ゴセイ、シンケンのメンバーが普通に学園生活をしていた

2011年12月29日17時47分発行